

第20回 京都市元離宮二条城保存整備委員会

次 第

1 開 会

2 京都市挨拶

3 報告

- (1) 令和元年度建造物部会における審議について・・・・・・・・・・ 1 頁
- (2) 令和元年度障壁画部会における審議について・・・・・・・・・・ 3 頁
- (3) 令和元年度記念物部会における審議について・・・・・・・・・・ 5 頁

4 議題

- (1) 本丸御殿玄関ほか2棟耐震補強計画の見直しについて・・・・・・・・ 7 頁
- (2) 史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画の策定について・・・・・・・・ 11 頁
- (3) 令和2年度の各部会への付託事項について・・・・・・・・・・ 13 頁

5 その他

- (1) 二条城の活用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15 頁
- (2) 令和2年度予算（案）の概要について・・・・・・・・・・・・ 19 頁

6 閉 会

日時:令和2年3月10日（火） 午後2時～午後4時（予定）

場 所: 二条城大休憩所レクチャールーム

(1) 令和元年度建造物部会における審議について

1 開催部会

(1) 第1回建造物部会（令和元年10月28日：14時～15時30分）

※ 第19回保存整備委員会（11月13日開催）で報告済み

(2) 第2回建造物部会（令和2年1月27日：10時～11時）

【出席者】

委 員：斎藤英俊 部会長（京都女子大学教授）
 甲津功夫 委 員（大阪大学名誉教授）
 八尾眞太郎 委 員（関西大学名誉教授）
 板谷直子 委 員（立命館大学歴史都市防災研究所客員研究員）
 オブザーバー：文化庁文化資源活用課（修理企画部門） 田中調査官
 京都府文化財保護課 小宮副課長（建造物担当）
 事 務 局：北村所長，山口副所長，西山部長，大西アドバイザー，鳥居課長，
 大森課長，来本課長他

2 審議内容（第2回）

議題・報告	参照
協議 本丸御殿玄関ほか2棟 耐震補強計画の見直しについて →議題（1） で説明 耐震診断の診断結果と補強素案を報告した第1回部会での指摘事項を踏まえ、公開ルートで見える部分の補強要素（鉄骨柱補強，建具状補強等）の基本的な考え方や配置計画を見直し，部会委員及び関連機関の個別指導において合意を得た。	7 頁

(2) 令和元年度障壁画部会における審議について

1 開催部会

第13回障壁画部会（令和2年1月31日：10時～11時30分）

【出席者】

委員長：村上 隆 部会長（京都美術工芸大学教授）

小寄善通 委員（成安造形大学副学長）

朝賀 浩 委員（宮内庁長官官房参事官）

根立研介 委員（京都大学大学院教授）

オブザーバー：文化庁文化財第一課 中野文部科学技官

：京都府文化財保護課 岸岡副課長（美術工芸品担当）

同 桑原技師（美術工芸品担当）

事務局：北村所長，山口副所長，西山部長，鳥居課長，大森課長，
来本課長他

2 審議内容

議題・報告	参照
議題(1) 第3次障壁画保存修理事業について 第3次事業の4年目の修理が順調に進んだことを報告した。	別紙 (1)-1
議題(2) 第4次障壁画保存修理事業について 令和3年度以降の計画案について，計画策定の考え方，実施概要，修理の進捗状況について報告し，計画案の合意を得た。	別紙 (1)-2
報告(1) 障壁画模写事業について(模写制作・はめかえ) 今年度の実績として遠侍勅使之間15面を完了し，来年度は遠侍及び白書院23面を制作予定であることを報告した。	別紙 (1)-3
報告(2) 「展示収蔵館」平成31年（令和元年）度原画公開について 4期の開催内容と入館者数等を報告した。	別紙 (1)-4

報告(3) 障壁画の貸出について 今年度の実績と来年度の予定がないことを報告した。	別紙 (1)-5
報告(4) 杉戸の修理計画について 30年度までの調査経過を報告するとともに、特に現状の板面に見られるPVA等への対応とそれに伴う応急修理の進め方について報告した。	別紙 (1)-6
報告(5) 修理対象障壁画からの発見について 二の丸御殿の遠侍勅使之間の天袋小襖貼付から見つかった、制作時と推定される墨書を報告し、修理における措置等を報告した。	別紙 (1)-7
報告(6) 本丸御殿障壁画修理について 5箇年のうち3年目となる今年度分の修理進捗等を説明した。今年度の修理対象は29面（御書院10面，御常御殿19面）で、予定どおり進んでいることを報告した。	別紙 (1)-8
報告(7) 二条城の活用について 今年度の二之丸御殿内での利用状況を報告した。	別紙 (1)-9

(3) 令和元年度記念物部会における審議について

1 開催部会

(1) 第1回記念物部会（令和元年10月8日：13時15分～14時45分）

※ 第19回保存整備委員会（11月13日開催）で報告済み

(2) 第2回記念物部会（令和2年2月3日：10時30分～11時30分）

【出席者】

委員：尼崎博正 部会長（京都造形芸術大学教授）
 岩崎奈緒子 委員（京都大学総合博物館教授）
 鋤柄俊夫 委員（同志社大学教授）
 藤井譲治 委員（京都大学名誉教授）

オブザーバー：文化庁文化財第二課 浅野調査官

：京都府文化財保護課 藤井主査，古川副主査（記念物担当）

事務局：北村所長，山口副所長，西山部長，大西アドバイザー，鳥居課長，
 大森課長，来本課長他

2 審議内容（第2回）

議題・報告	参 照
議題(1) 史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画の策定について 平成30年度から2年間（計8回）の検討ワーキンググループでの会議を経て作成した計画案について合意を得た。 → 議題(2) で説明	11頁
報告(1) 城内通路の改良について 前回終了後に，城内通路の改良について文化庁と事前協議を行ったことと，これからの実施スケジュール等を報告した。	別紙 (2)-1
報告(2) 西南隅櫓通路整備工事について 前回，記念物部会委員からいただいた意見により，通路構成の変更及び斜面へのアジサイ植栽を取止めたこと，また文化庁との事前協議により西南隅櫓周辺の変遷に関する説明板を設置することを報告した。	別紙 (2)-2

報告(3) 二条城北西隅石垣モニタリング調査について 今年度の観測結果では、石垣に大きな変位は見られなかったこと及び次年度も引き続き調査を継続していくことを報告し、確認した。	別紙 (2)-3
報告(4) 二条城事務所棟等再整備に係る取組について 二条城管理事務所棟の再整備について、今年度「基本的な考え方」の取りまとめを行い、来年度以降、関係各所と調整して進めていくことを報告した。	—
報告(5) 文化庁次長との意見交換について 令和元年12月に行った京都市北村文化芸術政策監と文化庁中岡次長との意見交換について報告した。	—

本丸御殿玄関ほか2棟 耐震補強計画の見直しについて

1 第1回部会報告について

平成31年2月以降、建物の解体調査を行ったところ、現行の補強計画に実施上の問題点が複数判明したため、同年8月から耐震診断等の再検討を実施し、第1回建造物部会（10月28日開催）において、3棟の耐震解析結果と補強素案の経過報告を行った。

(1) 診断の基本方針と結果

修理後に広く一般公開を予定しているため、必要耐震性能は安全確保水準とし（非倒壊の限界変形角を1/15以下とする）、立体モデルを用いた等価線形化法（第2種地盤の精算法を用いる）により診断を行った。診断の結果から、3棟は柱間が開放的な書院建築であるため、大地震時には、柱の曲げ折れ降伏が生じる柱が多数発生し、倒壊の危険性があることが判明している。

(2) 部会委員等からの指摘事項

補強計画案について、委員より以下のような指摘をいただいた。

委員からの指摘事項
・ 建具部分を補強要素として扱うこと ・ 柱の曲げ折れ補強金具を再考すること ・ 鉄骨柱等の補強鋼材は極力目立たない箇所に設置すること ・ 屋根葺材を銅板葺にした場合の案も検討すること ・ 建物の文化財的価値を踏まえて、補強要素の配置を再考すること

2 第1回部会以降の対応と第2回部会報告について

第1回部会での指摘事項を踏まえて補強案を3案作成し、12月～1月にかけて部会各委員・関係機関に個別指導をいただき、第2回部会にて鉄骨柱補強を主とする補強案を選定した。

(1) 部会委員等からの指摘事項

補強計画案について、委員により以下のような指摘をいただいた。

委員等からの指摘事項
・ 鉄骨柱幅のサイズダウン（当初計画：200mm角） ・ 鉄骨柱の色調 ・ 鉄骨柱の接合金具の取り付け位置 ・ 御常御殿の鉄骨ラーメン架構 － 既存建物との接合では、地震時の力の適切な伝達に留意。 － 建物を貫通する鉄骨梁が、既存部材に悪影響を及ぼさないようにする。 ・ 方立状補強は木製（添柱含め）で検討すること。 ・ 御常御殿茶所の方立状補強は建具状補強に替えること。 ・ 御書院二之間・三之間境の鉄骨柱を省略（小屋裏の補強で補完可能か）。 ・ 玄関の壁等の補強では、既存の表具下地の木摺を保存できるようにすること。 ・ 公開時における補強内容の掲示（看板等による補強内容の説明）

(2) 柱の曲げ基準強度の算出値について（報告）

第1回部会後の令和元年12月上旬に、3棟のほぼすべての柱を対象とする非破壊調査を実施した。調査の結果、現在の柱は、推定曲げ基準強度（無等級ひのき材）より概して高い値（1.0～2.0倍程度）を有していることが判明した。

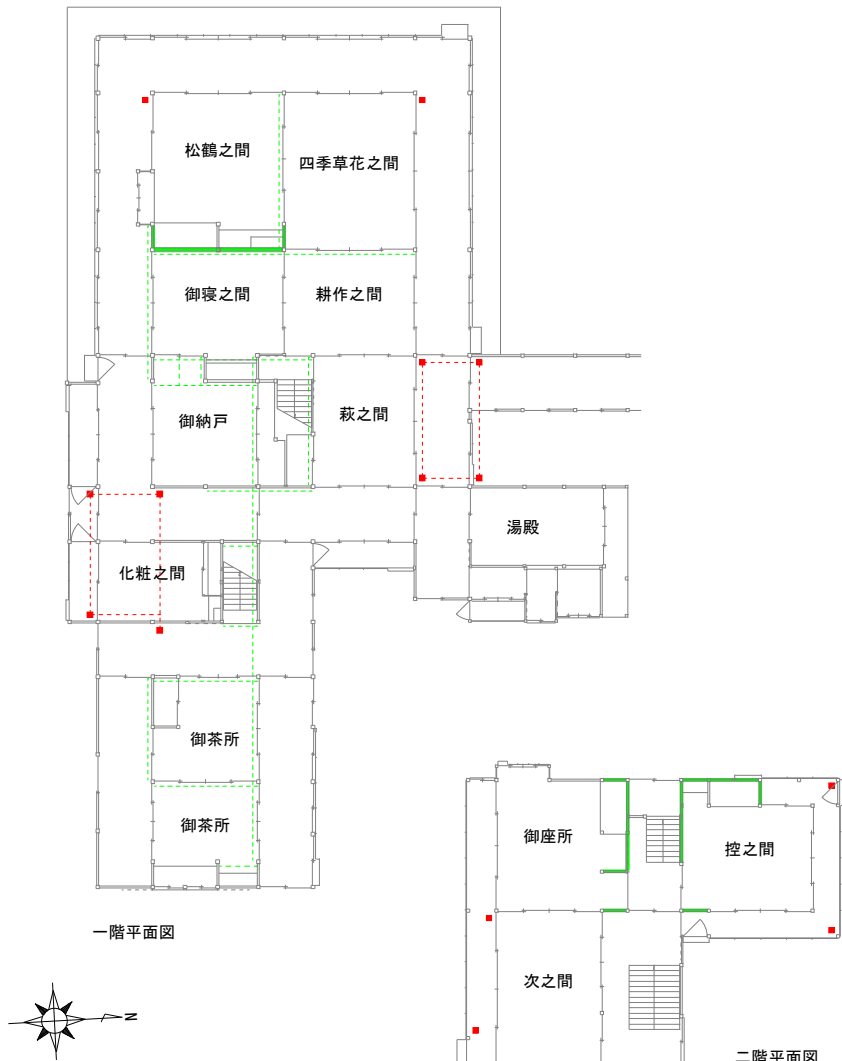
3 耐震補強計画案（9頁図参照）

以上を反映し、最終的な耐震補強案を固めた。今後はこの案をもとに、実施設計の作成を行う。

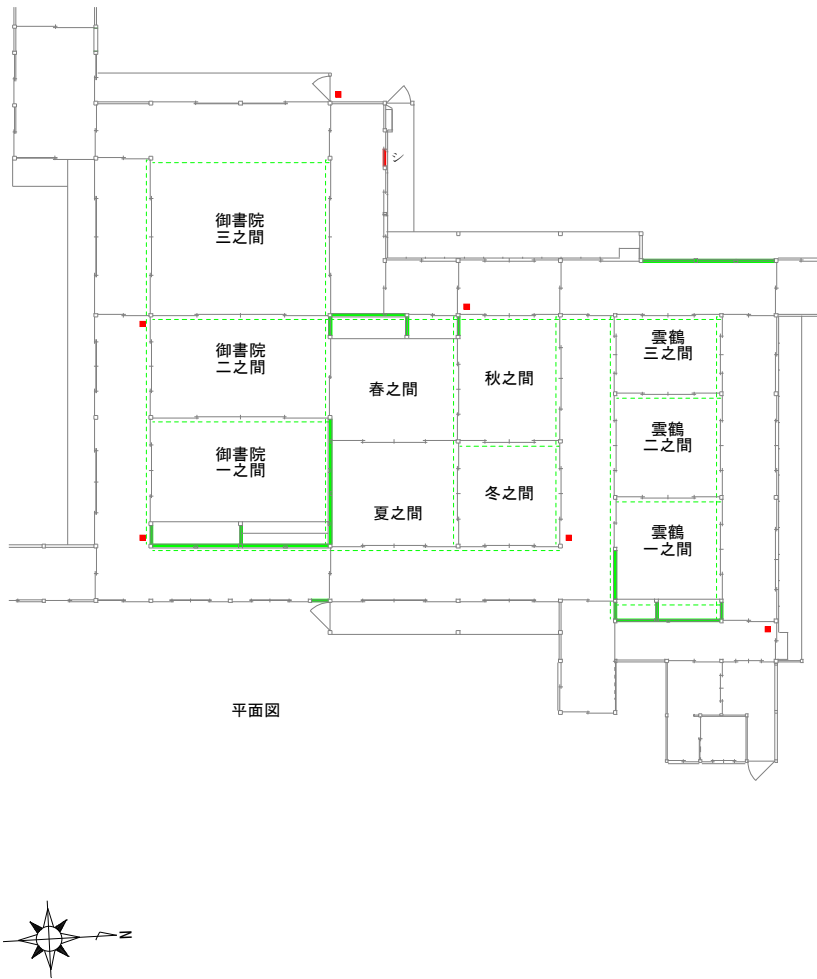
なお、実施設計業務は3月末日までに終了予定である。

玄関ほか2棟 耐震補強計画案
～ 各棟 柱の曲げ基準強度算出値を反映したもの ～

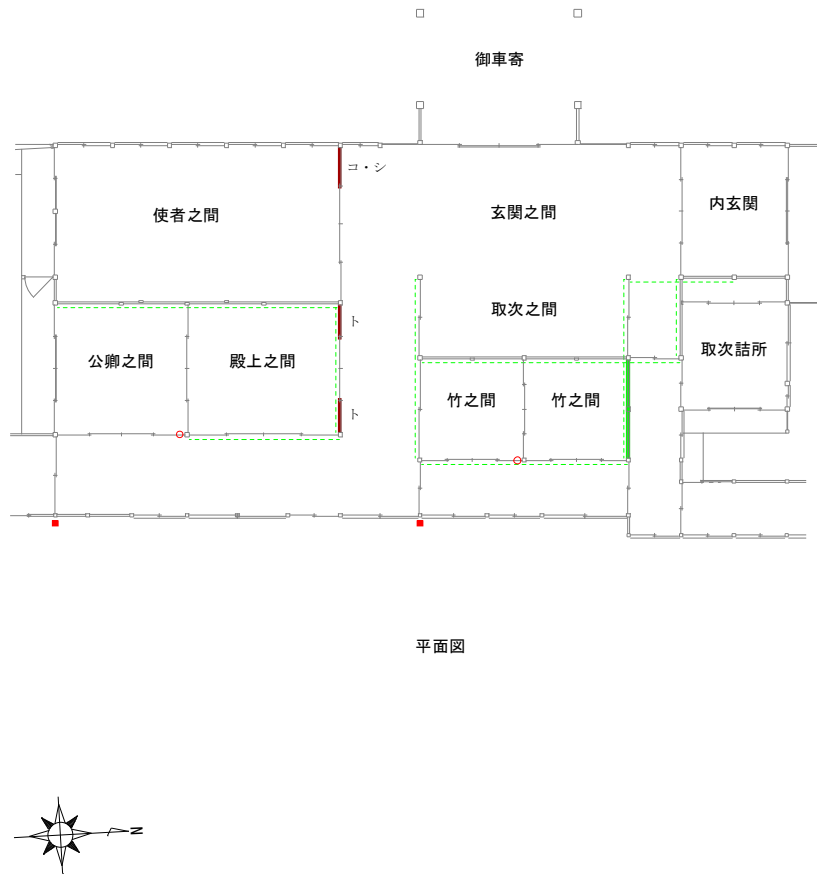
〈 御常御殿 〉



〈 御書院 〉



〈 玄関 〉



- 〈 凡 例 〉 赤記号：室内にみえる補強要素
- ：鉄骨柱（□-200×200）
 - ：建具状補強合板
 - ：方立状補強
- 緑記号：室内にみえない補強要素
- ：構造合板（壁体内片面or両面張）
 - ：足固補強（120×75両側）

〈 補強前後効果比較 〉

補強前		南北	東西	要求	
応答層せん断力 (kN)	2階	131.2	160.4		
	中2階	205.6	251.4		
	1階	329.9	403.3		
応答層せん断力係数	2階	0.234	0.286		
	中2階	0.197	0.241		
	1階	0.149	0.182		
応答層間 変形角 (rad)	平均 値	2階	1/36	1/19	1/30
		中2階	1/70	1/94	
		1階	1/19	1/21	
	最大 値	2階	1/18	1/13	1/15
		中2階	1/34	1/48	
1階		1/12	1/16		
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		30本	49本		



補強後		南北	東西	要求
応答層せん断力 (kN)		2階 299.5	344.6	
		中2階 433.1	559.7	
		1階 699.7	898.3	
応答層せん断力係数		2階 0.584	0.672	
		中2階 0.442	0.571	
		1階 0.329	0.422	
応答層間 変形角 (rad)	平均値	2階 1/33	1/30	1/30
		中2階 1/38	1/48	
		1階 1/32	1/32	
	最大値	2階 1/20	1/22	1/15
		中2階 1/34	1/33	
		1階 1/28	1/24	
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		なし	なし	

- 〈 凡 例 〉 赤記号：室内にみえる補強要素
- ：鉄骨柱（□-200×200）
 - ：建具状補強合板
 - ：方立状補強
- 緑記号：室内にみえない補強要素
- ：構造合板（壁体内片面or両面張）
 - ：足固補強（120×75両側）

〈 補強前後効果比較 〉

補強前		南北	東西	要求
応答層せん断力 (kN)		292.8	310.9	
応答層せん断力係数		0.147	0.156	
応答層間	平均値	1/23	1/23	1/30
変形角 (rad)	最大値	1/17	1/15	1/15
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		42本	43本	



補強後		南北	東西	要求
応答層せん断力 (kN)		721.9	753.6	
応答層せん断力係数		0.390	0.407	
応答層間	平均値	1/33	1/35	1/30
変形角 (rad)	最大値	1/21	1/21	1/15
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		1本	2本	

曲げ降伏が生じる柱があるが、崩壊に至らないことを別途確認している。

- 〈 凡 例 〉 赤記号：室内にみえる補強要素
- ：鉄骨柱（□-200×200）
 - ：建具状補強合板
 - ：方立状補強
- 緑記号：室内にみえない補強要素
- ：構造合板（壁体内片面or両面張）
 - ：足固補強（120×75両側）

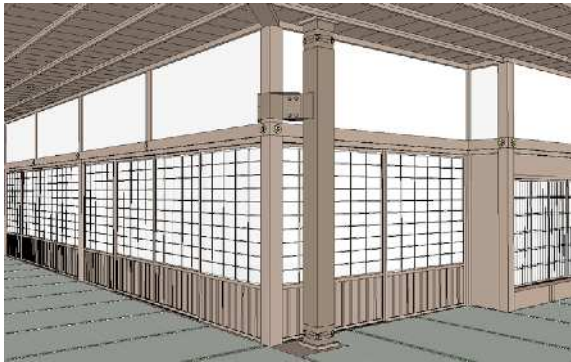
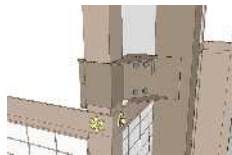
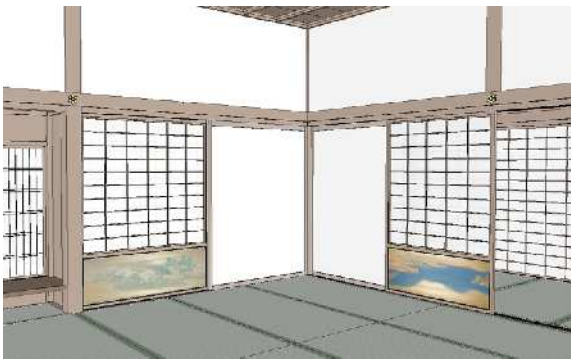
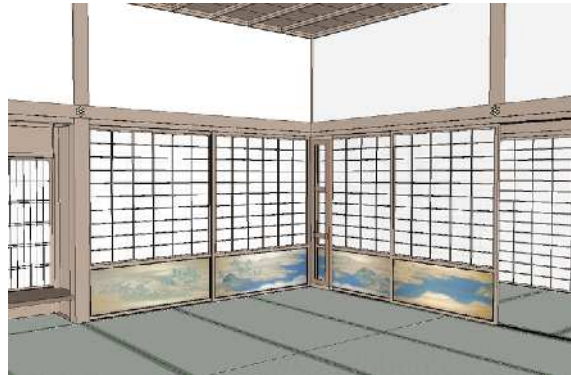
〈 補強前後効果比較 〉

補強前		南北	東西	要求
応答層せん断力(kN)		386.7	251.9	
応答層せん断力係数		0.194	0.127	
応答層間	平均値	1/29.6	1/22	1/30
変形角(rad)	最大値	1/21	1/16	1/15
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		17本	11本	



補強後		南北	東西	要求
応答層せん断力 (kN)		466.4	322.9	
応答層せん断力係数		0.252	0.174	
応答層間	平均値	1/34	1/31	1/30
変形角 (rad)	最大値	1/19	1/21	1/15
木材部材の耐力確認 (曲げ降伏が生じる柱)		なし	なし	

本丸御殿玄関ほか2棟
耐震補強計画案 室内にみえる補強要素のイメージ

■ 鉄骨柱		—— 建具状補強合板		○ 方立状補強	
  ▲ 既存柱との接合部（イメージ）					
メリット	・建物耐震性能の向上に効果が高い。 ・既存建具（障壁面含め）を存置することができる。 ・小壁部分が欄間等であっても改変は最小限にできる。	メリット	・柱の曲げ折れに対し効果が高い。 ・補強合板は建具風に意匠的な整備が可能。 ・取付部を除き、当初材への影響が最小限となる。	メリット	・他2案と比べ意匠的な影響（存在感）は少ない。 ・当初材の切り欠きなどの影響は少ない。 ・既存建具の開閉は可能である。
デメリット	・鉄骨柱の貫通する床・天井材の切り欠きが必要になる。 ・既存柱と長押上で緊結する金具がみえる。	デメリット	・オリジナル建具（障壁画とも）の別置保管が必要となる。 ・補強合板は不可動のため、設置には建物活用上の検討が必要である。 ・補強合板のため透過性はなく、障子部分での使用には注意が必要となる。 ・小壁が欄間の場合、補強合板と同等の面材で塞ぐ必要がある。	デメリット	・耐震性能の向上に大きな効果はなく、補強の箇所が限定される。 ・小壁が欄間の場合、同等の面材（ないしフレーム）で塞ぐ必要がある。

史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画の策定について

1 検討ワーキンググループ会議等の開催履歴

第1回 平成30年7月6日

第2回 平成30年10月16日（同日開催：平成30年度第1回記念物部会）

第3回 平成30年12月25日

第4回 平成31年2月19日（同日開催：平成30年度第2回記念物部会）

第5回 令和元年7月5日

第6回 令和元年10月8日（同日開催：令和元年度第1回記念物部会）

第7回 令和元年12月26日

第8回 令和2年2月3日（同日開催：令和元年度第2回記念物部会）

2 認定

令和2年4月以降に文化庁長官の認定を目指す。

3 目次

第1章 計画策定の沿革・目的	第4節 運営体制	第2節 災害時における来城者の安全確保
第1節 計画策定の沿革	第5章 基本方針	第3節 災害時における市民の安全確保
第2節 計画の目的	第1節 保存基本方針	
第3節 検討ワーキンググループの設置・経緯	第2節 活用基本方針	第11章 実施すべき施策
第4節 他の計画との関係	第3節 整備基本方針	第12章 経過観察
第5節 関連法令	第4節 運営体制基本方針	第1節 方向性
第6節 文化庁の認定	第6章 保存	第2節 方法
第7節 計画の実施	第1節 方向性	参考資料
第2章 史跡の概要	第2節 方法	資料1 埋蔵文化財
第1節 計画の対象範囲	第3節 現状変更及び保存に影響を及ぼす行為の取扱方針並びに取扱基準	資料2 石垣
第2節 指定・所有等の状況	第7章 活用	資料3 図
第3節 成り立ち	第1節 方向性	資料4 写真
第3章 史跡の本質的価値	第2節 方法	資料5 絵画
第1節 本質的価値の明示	第8章 整備	資料6 手続き
第2節 地区区分	第1節 方向性	
第3節 構成要素の特定	第2節 方法	
第4節 周辺の文化財等	第9章 運営体制	
第4章 現状・課題	第1節 方向性	
第1節 保存	第2節 方法	
第2節 活用	第10章 防災	
第3節 整備	第1節 文化財防災	

令和 2 年度の各部会への付託事項について

令和 2 年度に委員会で協議を予定する事項は、以下のとおりとし、各部会に付託する。

事 項	部 会	備 考
本丸御殿保存修理工事（耐震補強設置等） 平成 30 年度に契約を締結した本丸御殿玄関他 2 棟の保存修理工事（4 箇年のうち 3 年目）及び耐震補強設置を実施するとともに、障壁画 237 面の修理（5 箇年計画のうち 4 年目）を引き続き進める。	建造物	継続
第 4 次障壁画保存修理事業計画 令和 2 年度（事業 5 箇年計画の最終年）の実施報告（本格修理 21 面を予定）と、令和 3 年度以降の第 4 次障壁画保存修理事業（5 箇年のうち 1 年目）の計画案を検討する。	障壁画	継続
障壁画模写制作・はめかえ事業 令和 2 年度の実施報告（模写制作 23 面、はめかえ 12 面を予定）と、次年度の計画案を検討する。	障壁画	継続
史跡旧二条離宮（二条城）整備計画策定 「史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画」で定めた整備にかかる事項のうち、城内通路の改良や総合案内所の設置等、令和 5 年度までに整備完了を予定しているものについて、第 1 次整備計画として策定を行う。	記念物	新規
二条城北西角石垣モニタリング調査	記念物	継続
元離宮二条城事務所棟等再整備に係る取組 二条城管理事務所棟の再整備に係る基本的な考え方について、関係各所と調整を行い、進めていく。	記念物	継続

令和元年度二条城の活用について

現在、二条城では、国内外の人々に対し、二条城や文化財への興味や関心を高めていただく機会を提供し、世界遺産であり、国宝・重要文化財を有する二条城の文化財としての価値を共有していただくとともに、二条城を後世まで保存・継承するための本格修理事業を実施するための修理費用を獲得することを目的に二条城の活用を進めております。

・二条城の本質的価値を伝える事業

実施日	事業名	場所
全4期	「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 第1期 4月18日から6月17日 第2期 7月11日から9月8日 第3期 10月3日から12月1日 第4期 12月16日から2月16日	展示收藏館
全4回	「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 ギャラリートーク 第1回 5月11日 第2回 7月27日 第3回 10月19日 第4回 2月1日	レクチャールーム
全2回	二の丸御殿特別入室 大広間四の間 7月10日から8月26日 式台の間 1月4日から1月27日	二の丸御殿
全5回	二の丸御殿特別入室解説会 大広間四の間 7月12日 8月9日 式台の間 1月9日、15日、23日	レクチャールーム
9月3日	ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 ソーシャルイベント 二の丸御殿夜間特別公開	二の丸御殿
11月10日、 23日	二条城歴史講座 「二条城は誰のものか」 同志社大学教授小林丈広 「江戸時代の二条城」 京都大学名誉教授藤井譲治	レクチャールーム
11月20日～ 22日	Living History in 京都・二条城～生きた歴史体感 プログラム～	二の丸御殿 二の丸御殿中庭

・その他二条城の魅力を伝える事業

実施日	事業名	場所
3月21日～ 4月14日	二条城桜まつり 2019	城内一円
4月9日	観桜茶会（表千家）	清流園

4月12日～ 5月12日	KYOTO GRAPHIE	御清所
5月2日～ 6日	はろうキティ太夫 in 二条城	台所
5月3日～ 5日	第65回市民煎茶の会（煎茶6流派）	清流園
5月18日, 19日	京都二条城茶会	清流園
5月18日～ 26日	セレブレーション 日本ポーランド現代美術展	東南隅櫓
6月8日	京都の剣鉾差し	唐門前
7月1日～ 9月30日	香雲亭 朝御膳提供	香雲亭
8月1日～ 15日	京の七夕 二条城ライトアップ	城内
8月31日～ 9月3日	時を超える 美の基準	台所
9月6日～ 9日	art KYOTO 2019	台所・東南隅櫓
9月14日	パネルディスカッション「日本の未来を展望する」	香雲亭
9月20日～ 10月6日	「京都詩情」写真家 甲斐扶佐義 初回顧展	台所
10月11日～ 12月8日	【二条城まつり 2019】 ・二条城「謎解きラリー」 ・秋季特別ライトアップ FLOWERS BY NAKED2019- 京都・二条城-10月26日～ 12月8日	二の丸御殿ほか
10月13日	京都国際舞台芸術祭	台所前庭
10月27日	市民大茶会（裏千家）	清流園
11月1日	市民大茶会（表千家）	清流園
11月3日	市民大茶会（藪内家）	清流園
1月11日～ 2月20日	【世界遺産 二条城の早春】 ・香雲亭での昼御膳提供	香雲亭
2月22日～ 24日	二条城煎茶会	清流園
3月20日～ 4月12日	二条城桜まつり 2020	城内一円

・ MICE プラン

実施日	種別	事業名	場所
4月13日～ 4月14日	展示会	コンコルソ・デレガンツァ（クラシックカー展示）	中庭・台所・台所前
4月18日	パーティー	京都南ロータリークラブ 設立65周年記念式典	中庭・唐門・ 東南隅櫓前庭
5月21日	展示会	伊藤園記念ボトルサンプリングイベント	台所前庭
9月14日～ 15日	展示会	KIMONO FASHIONSHOW 京都二条城	台所前庭
10月3日	式典	ICSCRM2019 ガライベント	台所前庭
10月15日	パーティー	A&K社企画ツアーレセプションパーティー	台所前庭, 唐門・東 南隅櫓前庭
10月21日	パーティー	タマリス70周年記念事業	台所・台所前庭
12月18日	展示会	日産自動車 NIM車種屋外展示	台所・台所前庭
3月2日, 3日	展示会	楽風舎 本友禅着物作品展	香雲亭

・ Living History「生きた歴史体感プログラム」 文化庁新規事業

＊歴史的な出来事や当時の生活を再現することにより、生きた歴史の体感・体験を通じて文化財の理解を促進する取組を支援

二条城での事業内容：わが国における歴史の転換の舞台となった二条城

- ・ 3代将軍・家光による後水尾天皇の寛永行幸
- ・ 15代将軍・慶喜による大政奉還の表明
- ・ 離宮としての大正天皇御即位の饗宴

＜31＞事業費 40,000 千円 うち国庫補助金 20,000 千円

「寛永茶会～菊と葵～」 令和元年 11 月 22 日（金）

二の丸御殿 黒書院（国宝） 茶席

二の丸御殿 中庭 弓馬術礼法の観覧

二の丸御殿御清所（重文） 説明・解説

参加料 7,000 円 定員：各回 13 人

＜当日の様子＞

○説明・解説（御清所【重要文化財】）

徳川和子と女官が当時の衣装で登場し、衣装や寛永行幸屏風について解説。



○茶会（二の丸御殿黒書院【国宝】）

後水尾天皇が多彩な文化人と交流し形成した「寛永サロン」に集まった人々と、二条城の主、徳川家が一堂に会した夢の茶会を再現。茶会は、炭火と水を使用し実施。



○弓馬術礼法（二の丸御殿【国宝】：中庭）

徳川家の弓馬術師範として徳川家や大名を指導した小笠原家の小笠原流弓馬術礼法を実施。



令和 2 年度予算（案）の概要について

主要施策の概要※	予算額（千円）	（参考） 平成 31 年度
1 二条城運営 ・二条城運営（経常経費） ・庭園管理 等	584,858	532,191
2 二条城城内環境向上事業 ・城内通路改良 ・庭園等整備改修事業（二の丸庭園建仁寺垣更新） ・サクラ等花木充実	74,200	155,800
3 Living History in 二条城 ～生きた歴史体感プログラム～	25,000	24,000 (5 月補正)
4 二条城整備 ・障壁画模写 ・その他施設改修 等	226,226	221,679
5 世界遺産・二条城本格修理事業 ・本丸御殿の保存修理	235,600	260,800
6 二条城 2020 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、季節ごとに多彩な事業を展開する。 ・二条城桜まつり ・二条城夏まつり 等	40,000	15,500
計	1,185,884	1,185,970 (別途 5 月補正 24,000)

※ 基金積立金等を除く。